

第5回公立岩瀬病院
中長期計画評価委員会会議録

平成26年10月30日

第5回公立岩瀬病院中長期計画評価委員会会議録

日時 平成26年10月30日(木)

午後2時

場所 公立岩瀬病院 外来棟大会議室(3階)

議題

- 1 平成25年度公立岩瀬病院事業会計決算報告について
- 2 中央診療棟・外来棟完了報告について
- 3 公立岩瀬病院中長期計画見直しについて
- 4 その他

出席委員(6名)

須賀川市社会福祉協議会会長	小林 清三
須賀川歯科医師会会長	田代 直也
須賀川薬剤師会会長	細井 正彦
須賀川市健康づくり推進員会会長	相樂 栄子
鏡石町保健委員会副会長	柳沼 信夫
天栄村国民健康保険運営協議会会長	小針 光治
玉川村住民代表	鈴木 一夫

欠席委員(3名)

須賀川医師会会長	西間木友衛
須賀川青年会議所理事長	佐藤 浩之

説明のため出席した者

企業長	伊東幸雄	副院長	土屋貴男
副院長	安達恵美子	事務長	菅野俊明
参事兼総務課長	塩田 卓	医事課長	有賀直明
病院建設対策室長	鎌田大輔		

欠席者(2名)

院長	三浦純一
副院長	大谷 弘

午後2時00分 開会

総務課長（塩田 卓君）

それでは、まず初めに、報告をさせていただきます。

本日は、須賀川医師会会長、西間木友衛様、並びに須賀川青年会議所理事長、佐藤浩之様より、所用により欠席のご連絡をいただいておりますのでご報告申し上げます。また、合わせまして当院の三浦病院長につきましては、全国自治体病院協議会の学会が宮崎市でございまして、そちらへの出席要請がありまして、公務出張ということで欠席となります。また、大谷副院長につきましても、研修会の参加のため欠席させていただきます。

それでは、次に前委員の後藤幸子様にかわりまして、新たに須賀川市健康づくり推進委員会会長、相樂栄子様、また、面川祐也様にかわりまして鏡石町保健委員会副会長、柳沼信夫様が、また、瀬和正義様にかわりまして天栄村国民健康保険運営協議会長、小針光治様が委員に選任されておりますので、これから企業長から委嘱状を交付させていただきます。

（委嘱状交付）

総務課長（塩田 卓君）

ありがとうございました。

次に、委員の皆様と当局職員をご紹介申し上げます。

須賀川市社会福祉協議会会長、小林清三様です。

会長（小林清三君）

よろしくお願いたします。

総務課長（塩田 卓君）

須賀川市歯科医師会会長、田代直也様です。

須賀川市歯科医師会会長（田代直也君）

よろしくお願いたします。

総務課長（塩田 卓君）

須賀川薬剤師会会長、細井正彦様です。

須賀川市薬剤師会会長（細井正彦君）

よろしくお願いたします。

総務課長（塩田 卓君）

須賀川市健康づくり推進委員会会長、相樂栄子様です。

須賀川市健康づくり推進委員会会長（相樂栄子君）

よろしく申し上げます。

総務課長（塩田 卓君）

鏡石町保健委員会副会長、柳沼信夫様です。

鏡石町保健委員会副会長（柳沼信夫君）

よろしく申し上げます。

総務課長（塩田 卓君）

天栄村国民健康保険運営協議会会長、小針光治様です。

天栄村国民健康保険運営協議会会長（小針光治君）

よろしくお願ひいたします。

総務課長（塩田 卓君）

元玉川村総務課長、鈴木一夫様です。

玉川村住民代長（鈴木一夫君）

よろしく申し上げます。

総務課長（塩田 卓君）

次に、病院職員をご紹介します。

企業長、伊東です。

企業長（伊東幸雄君）

企業長の伊東でございます。お世話になります。よろしくお願ひいたします。

総務課長（塩田 卓君）

副院長兼消化器外科部長、土屋です。

副院長兼消化器外科部長（土屋貴男君）

土屋貴男です。よろしくお願ひいたします。

総務課長（塩田 卓君）

副院長兼看護部長、安達です。

副院長兼看護部長（安達恵美子君）

安達恵美子です。よろしくお願ひいたします。

総務課長（塩田 卓君）

事務長、菅野です。

事務長（菅野俊明君）

菅野です。よろしくお願いいたします。

総務課長（塩田 卓君）

医事課長、有賀です。

医事課長（有賀直明君）

有賀です。よろしくお願いいたします。

総務課長（塩田 卓君）

病院建設対策室長、鎌田です。

病院建設対策室長（鎌田大輔君）

鎌田です。どうぞよろしくお願いいたします。

総務課長（塩田 卓君）

私、参事兼総務課長の塩田です。どうぞよろしくお願いいたします。

次に、企業長よりご挨拶を申し上げます。

企業長（伊東幸雄君）

それでは、改めまして企業長の伊東でございます。よろしくお願いいたします。

本日、第5回公立岩瀬病院中長期計画評価委員会にご出席いただきまして、まことにありがとうございました。

ただいま、退任されました委員の方々にかわりまして、新たに須賀川市健康づくり推進委員会会長、相樂栄子様、鏡石町保健委員会副会長、柳沼信夫様、さらには、天栄村国民健康保険運営協議会会長、小針光治様を委員としてお迎えをいたし、ご委嘱申し上げます。

これによって新たな構成での委員会となりましたことを厚く御礼を申し上げます。

当委員会でございますけれども、平成24年度から5カ年の計画で病院の運営指針でございます「公立岩瀬病院中長期計画」につきまして、取り組み状況の点検及び評価、並びに今後の病院運営のあり方などについて、ご意見、ご提言をいただき、計画の着実な実行と、今後の病院経営の改善を図るために設置をしたところでございます。

中長期計画でございますけれども、4つの基本方針を掲げております。

救急医療体制の強化、地域医療完結型医療の推進、地域医療に貢献する人材の育成、地域住民との協働による健康づくりの推進でございます。これらの役割を果た

すために、さらに7つの重点課題を設定いたしまして、病院運営の改革、改善に取り組んでいるところでございます。

この間、東日本大震災からの復旧・復興工事として「中央診療棟・外来棟」、この建物でございますけれども、この整備に取り組んでおりましたけれども、この整備が済みまして、病院を取り巻く環境も変化をしております。また、本年度が5カ年計画の3年目ということもございますので、この計画の見直しにも今年度着手したところでございます。後ほど議題の3としてご報告、ご説明を申し上げたいと思います。

新病棟の建設から引き続きまして、災害復旧工事として施工してまいりましたこの新外来棟、あるいは外溝工事としての駐車場、こういったものが完了いたしまして、7月末をもって竣工したことによって、去る8月30日に当評価委員会委員の皆様を初め、多くの来賓の方々をお迎えをいたしまして、グランドオープンの記念式典を挙行させていただきました。大変お世話になりました。

この式典の席上、岩手県の奥州市立後藤新平記念館の高橋館長からは、ゆかりの掛け軸を、またアクアマリンふくしまの安部館長からはクラゲの水槽展示、それぞれ贈呈いただいております。花を添えていただいたものと思っております。

また、今月12日にはこの新しくなりました外来棟、駐車場などを会場といたしまして第11回の病院フェスティバルを開催いたしております。今年は例年になく多くの方々にもご来場いただきまして、地域の皆様にかかれた、健康人も集う病院づくりを進めている当院の取り組み状況、あるいは新しい建物、病院、これをお披露目させていただいたところでございます。

地域、そして多くの人々に支えられている病院であることを改めて実感をした次第でございます。

職員一同、この整備なった施設で地域医療を提供できる喜びと、皆様方の期待に応えていく責任を自覚し、復興のスローガンとしております「日本で一番の長寿のまちをつくり、災害に強い病院をめざす」、このことを具現化していくために、整備された病院施設を最大限に活用し、地域医療の中での役割を果たしてまいりたいと思っております。

さて、この間、医師招聘の取り組みをしてきておりますけれども、その成果と申しますか、9月1日から福島県立医科大学臨床研究イノベーションセンターから、

5名の医師による診療支援が開始をされております。

この事業ですけれども、須賀川市が福島県立医科大学と連携いたしまして、健診受診率の向上や医療情報を有効に活用しまして、医師の指導のもとに保健事業を推進するなど、新たに中高年の早期死亡のリスクの評価、あるいは高齢者になっても自立して生活ができる健康長寿推進事業、こういったものを展開する事業でございますが、この中の一環として地域医療支援として当院への、先ほど申しました先生方の診療支援というのが実現したところでございます。

県内の医療施設が勤務医師の招聘に大変ご苦労、苦戦をしている中で、地域保健行政の課題研究と合わせまして、我々病院を通します地域医療への支援、こういったものがいただけるという本事業につきましては、県内でも特出すべき事業として注目をされておると考えております。

支援内容ですけれども、シフト制によりまして、10月からさらに1名がふえまして6名体制となっておりますけれども、この先生方が交替で毎日、毎週1日ずつ、主に総合診療科外来の診療を担当していただいております。これによって紹介患者、あるいは初診患者などを担当していただくことで、当院のお医者さんの負担軽減と専門領域への特化した業務従事などにつなげていきたいというふうに考えております。

さらに、当院といたしましては、福島県立医科大学から新たな医師を派遣していただく機会としても捉えておりまして、さらなる医師の派遣先医療機関としていただけるよう、魅力ある病院づくり、施設づくりに努めていく所存でございます。

次に、9月29日に企業団議会が開会されておりまして、この定例会におきまして平成25年度決算が承認をされております。本日付で決算書を委員の皆様のお手元のほうにもお届けしております。内容については後ほどご確認いただきたいと思いますが、私のほうから概要について申し上げます。

25年度経常収益は43億6,461万円余りとなっておりますが、対します経常費用は46億156万円余りとなっております。その結果、経常収支は2億3,694万円余りの損失ということになります。加えまして過年度分の退職手当負担金8,000万円を特別損失として計上いたしました。

この決算で「公立岩瀬病院中長期計画」の数値目標に対して申し上げますと経常収支比率、これはもちろん100%を目標にしておりましたけれども、実績としては

94.9%、これは5.1ポイント目標に届いておりません。職員の給与比率、これは目標が56.2%ということにしておりましたが、これも61.7%となりまして、目標を5.5ポイントほど上回る事となっております。

病床利用率、これは目標80.4%に置いておりますが、実績は76.9%でありましてこれも3.5ポイントほど届いておりません。

25年度は、年度当初から臨床研修医3名を加えましても、前年度の当初比から比べますと6名ほど、医師が減っておりまして、合計21名の常勤医師体制という厳しい医師体制の中での運営からスタートを切ったということでございます。

この間、医師招聘に努めてきました結果、年度末では23名となりましたけれども、年間を通して常勤医師の少ない中での運営を強いられてきております。本年度4月に小児科医師1名が着任をしまして、現在は24名の常勤医師体制ということの運営でございます。これによりまして、昨年比では患者数も増加傾向を示すなど、一定の改善が図られております。

11月から常勤の麻酔科医師の着任が予定をされておりますので、引き続き限られた医師の業務負担を軽減するために医師招聘に努力するほか、先ほど申しましたイノベーションセンター研究員の医療支援、さらにはチーム医療としての医療技術員の活用など、施設基準や診療報酬での収益の増を見込むなど、入院患者の受け入れや診療単価を確保して、患者サービスの向上に努めながら地域医療を守り、結果として病院経営の安定に資するよう、さらに取り組みを進めてまいらうと思っております。

今後とも救急医療の地元引き受け率の向上、あるいは地域医療支援病院指定に向けて紹介率、逆紹介率の向上、そして安定的な黒字基調の病院経営を目指しまして、一層の取り組みの強化を図り、地域の皆様から信頼される病院づくりを職員一丸となって進めてまいりたいと思っておりますので、委員皆様方の特段のご支援、ご指導をお願い申し上げたいと思っております。

本日の評価委員会でございますけれども、公立岩瀬病院中長期計画見直しにつきましてなど、3件を議題としております。

詳細につきましては、事務局から説明をさせますが、皆様方には忌憚のないご意見をお願い申し上げまして挨拶とさせていただきます。

よろしくお願いいたします。

総務課長（塩田 卓君）

それでは、ここで資料の確認をさせていただきます。事前に郵送いたしております資料につきまして、次第、前にお送りしている中長期計画という冊子、あと平成25年度の企業団病院事業関係決算書、あと本日配布しております中長期計画の見直しについてと病院の内容を紹介しておりますパンフレット、中長期計画の評価委員の皆様の名簿、評価委員会の設置要綱とカラー刷りしております一日当たりの患者数及び単価の推移ということで入院と外来の内容を示しておりますものが資料となっております。よろしいでしょうか。

それでは、会議に入らせていただきます。

会議の進行につきましては、本会設置要綱第5条第1項の規定によりまして、会長が務めることになってございますので、小林会長の進行でよろしく願いたします。

会長（小林清三君）

皆さん、こんにちは。会長の小林清三でございます。

今回、設置要綱の定めによりまして会議のほうの進行に当たらせていただきます。ただいまから開始したいと思います。

きょうはごらんのとおりの天候でございますので、何かと委員の皆様にはご多忙であるかと存じますので、努めて議事の円滑化に努力をしていきますので、よろしくご協力のほどをお願いいたします。

座らせていただきます。

それでは、平成25年度公立岩瀬病院事業会計決算報告につきまして、当局からご説明願います

事務長。

事務長（菅野俊明君）

事務長の菅野です。私のほうから報告をさせていただきます。

別紙の決算書をごらんいただきたいと思います。

決算書の16ページ平成25年度病院事業報告書についてご報告させていただきます。

まず（1）の総括事項の一般概況ですが、前段のほうでは厚労省、国の医療、介護をめぐること、病院をめぐる情勢について述べております。

一言で言いますと、2025年、超高齢化社会に向けて医療による環境がこれか

らは激変していきますので、そういうところで国は既に社会保障と税の一体改革、これに関連する基本方針の具体策が次から次へと打ち出されていますが、そういう中で病院、特に急性期については7対1看護の部分ですとか、これは今年度の診療報酬につながって、いろいろな施策で急性期の医療に対する見直しが変わるということをお述べております。

また、介護におきましても、介護保険のほうは来年、2025年を見据えた改定が準備されていますが、そういうところで、ここでは超高齢化社会に向けて国と地方がそういうことを考えているということをお述べております。

具体的に病院の事業内容については、触れられましたが、下の方で、医師体制です。平成24年度当初は常勤27名でスタートしましたが、平成25年度当初の医師体制は常勤医21名体制でスタートいたしました。かなり厳しい運営を強いられるような形になったなど考えております。

17ページ、昨年度は公立岩瀬病院の中長期計画においてということで、引き続き4つの病院の基本方針と重点課題、これを推進して取り組んできました。

のところで、一番大きな事業としては、震災からの復旧・復興事業としまして、この建物、新外来棟、中央診療棟の建設を始めまして、これは12月1日に完成いたしました。翌2日から新外来棟、この建物での外来診療を開始したところです。

その後、ことしに入り、7月末に外溝工事、あと駐車場整備をいたしまして8月15日には駐車場システムの本稼動するような形で、今は230台の駐車場で、今のところは外来の患者さんもふえている中では、駐車場が満杯であふれるということとはございません。そういう意味では非常にいい駐車場に整備したかなというふうにお考えしております。

なお、8月30日は皆さんに協力いただきまして、無事グランド・オープンを開催することができました。

、医師プロジェクトチームは、この間も開催をしながら、常勤医師の確保ということで努力をしてきました。企業長の話でも触れられましたが、なかなか、常勤医の招聘のところでは実現できませんでしたが、4月から順天堂大学消化器内科講座から毎週1回、胃カメラの検査で医師をいただいております。現在も出向医師はいただいております。

それから整形外科の支援もいただいております。また25年度の10月、秋口か

ら小児科の支援ということで、日本医科大学、東京医科歯科大の医師それぞれ1名ずつご支援をいただいております。この支援につきましては、医師会の先生からのご紹介で、うちの副院長と私が出向いてご指導をいただけるような形になりました。

現在は、ことしに入って、小児科の常勤医師3名体制になりましたので、一応、9月でこの外来支援については応援を受けながら閉じさせていただいております。

それから医療体制としましては、今年の4月から総合診療科を設置しました。これにつきましては、診療所との連携をより一層強化する体制づくりができたというふうに思っております。

また、小児科はしばらく2名体制、常勤2名体制でしたので、昨年度は外来を火曜日休診としていましたが、3月、25年度の最後のほうになりますが、3月から再開をして毎日1回の診療体制は維持しているところでございます。

また、ウのところですが、リハビリテーションの早期開院ということで、これはもう隔週土曜日、実施してはありますが、これを毎週実施というところで評価をいたしました。これは患者さんや家族の方からも非常に好評で、特に木曜、金曜の手術された患者さんには早期介入して対応するということでは治療効果を上げているということで報告をいただいております。

、ホールボディカウンタは引き続き、市町村の委託を受けて年間通じて、市町村と相談をしながらこれは運営をしまして、昨年度実施は、稼働日数151日、4,345人の、子供さんを中心ということですが、検査を実施しております。

検査の結果は健康に影響を及ぼす結果は出ませんでした。

それから18ページ、須賀川地域包括ケアシステム、これはその前の24年度から開催をして毎月1回、開催をして協力いたしております。

この考える会の活動は昨年度は協同で東京より事業を買いましょうということで2点実施しました。「すかがわ見守り徘徊SOSネットワーク」、これを検討しながら立ち上げて、これは今も運営実施しております。あとは「緊急連絡カード」、これの活用の推進、これについて議論をして進めてきました。考えてみれば、今年度もずっと続いておまして、ちょうど10月18日に、講演会、認知症をテーマにした講演会とシンポジウムを開催するところまでも活動につながっております。

それから、の出前講座、これも引き続き昨年度も取り組んで18回、延べ503名の参加で進めております。この出前講座についても今年度も引き続き対応して

いるところでございます。

19ページ以降、財務状況の報告を簡単に、このくらいは概略して報告しておりますが、この場では割愛させていただきます。

あと20ページは1年間の主な病院で取り組んできた活動について、報告事項として時系列に入れております。

それから27ページの、事業の状況ということで、患者さんの動向でその他の資料、ここに添付していますが、まず下のほうから(3)各科別患者取扱状況、入院と外来患者さんの数について表にして資料にさせていただきます。

入院については、24年度、25年度と対比、外来についてもそうでございますが、入院については24年度6万8,193人、一日当たり、その横に書いていますが186.8人ということでしたが、25年度は10月時の総患者数は6万7,352人、一日平均で言いますと184.5人ということで、これは医師体制ということが一番大きな要因でございますが、入院の患者数は、取り扱いとしては減少傾向ということになりました。

外来につきましても、同じような状況でございますが、24年度が一日当たり285.9人、1年間、総患者数は7万54人でしたが、25年度は一日当たりが266.3人、総患者数が6万4,700人ということで、外来患者さんについても減少しているという形でございますが、非常に、そういう意味では厳しい1年だったかなというふうに考えております。

あわせて、24年度の総患者数、外来と入院をごらんいただきたいと思いますが、これは3月の、この場でもご報告いたしました。急性期の病院としては、どうしても外来患者数が多い中で、入院患者さんに去られるということで、目標はそんな感じなんです。残念ながら25年度は入院患者さんのほうが、総数としては多かったということで、外来の患者さんが、そういう意味では大きく減少することになりました。

ほかの診療については、また地域別の患者数とか、示してございますが、後はごらんいただければというふう思います。

それで、追加資料で1枚のカラーのグラフを添付しました。これは外来患者数、入院患者数と一日当たりの単価の推移を1月以降の数でグラフにしました。4月からことしは医師体制の常勤24名ということで、外来診療タイムもふやすことができ

ましたので、結果、4月からは、赤で示しているのは入院患者数、これ1日です。青い棒グラフが1日外来患者数ということでございます。8月は外来はちょっと、例年8月という時期はそうなのですが、入院、外来とも着実に患者数はふえてきているかなというふうに考えております。

また、入院単価についてもこれは4月以降、9月までの結果では少しずつ上がってきている状況になっております。特に9月の入院患者数は199.2人ということで、もう少しで200台というところまで来ましたが、診療単価の4万3,636円ということで、4万3,000台に入りました。

これは外科の手術件数と、難易度の高い手術がチーム対応しましたので、時間外の対応も随分、一役買った形になりますが、入院の診療単価が8月に比べて全部上向いておる、なったということで現在の状況としては、そういう状況となっていることをあわせて報告して、決算の概括的な報告とさせていただきます。

以上です。

会長（小林清三君）

ただいま、平成25年度公立岩瀬病院事業会計決算報告につきまして、説明がありました。委員の皆様から、ご質問、ご意見を伺いたいと思います。

どうぞ、ご遠慮なくご発言をいただけませんか。

ございませんか。なければ、次に移らせていただいてもよろしいでしょうか。

（「はい」の声あり）

会長（小林清三君）

次に、中央診療棟・外来棟完了報告について、当局から説明願います。

事務長（菅野俊明君）

私のほうから引き続き報告させていただきます。

これは中央診療棟、外来棟並びに駐車場の完成をいたしまして、グランド・オープンに間に合うような形で、新しく病院のパンフレットをつくりました。

このパンフレットで報告にかえさせていただきたいと思いますが、病棟をつくったときにも簡単なパンフレットでしかつくりませんでしたので、一応、病棟の方も含めて、新たに病院のパンフレットを、持っていませんでしたので、一から作り直すということで整備をしました。

一応、病院の紹介についてはカテゴリー別、病院の中長期計画、また事業計画の

中で述べている質の高い医療を提供する病院、それぞれのページの左側にテーマをつけて編集をしています。

患者さん中心の病院ということで、外来と健診に紹介をしています。地域の医療を担う病院、これについては今度新しく化学療法室を、今までは4床だったんですが12床ということで、ベッドも新しく整備をして対応しています。

あと入退院支援室、看護外来は新たにこの外来棟の建設に伴って新設したものでございます。

それから、中長期計画でもうたっていますが「災害に強い病院」ということで、ここの部分についてもですが、緊急に患者さんを収容できるようにしようということで、いろいろな設備も対応しています。

また後、病棟のほうも屋上、7階屋上には改良のヘリが新たに設置をしております。

それから、これは中長期計画の中でうたっていますが、健康人も集う病院ということで、後藤新平コーナーを新たに、こちらの大会議室の壁際にコーナーをつくって常設展示をいたしております。売店・カフェレストランも整備をいたしました。

駐車場の整備につきましては、須賀川出身の偉人を顕彰したのも、できるだけ、ちゃんと配置、新たに工夫して整備をいたしました。

会長（小林清三君）

ありがとうございました。

ただいま中央診療棟・外来棟完了報告についてご説明がございましたが、委員の皆様からご質問、ご意見等をお話しいただきたいと思います。

ございませんか。

（「なし」の声あり）

会長（小林清三君）

次に、公立岩瀬病院中長期計画見直しについて、当局からご説明をお願いいたします。

事務長（菅野俊明君）

ご報告いたします。

別紙の資料、中長期計画見直しについて、ごらんいただきたいと考えます。

中長期計画、ことしは3年目ということで、外部環境も大きく当初の述べていた

ところから大きく変化をしている課題もありまして、3年目となっている視点で目標、あと課題を再検討とする必要があるということで、今後の病院運営のさまざまな課題に取り組んでまいろうということですが、指針の必要な見直しをこれからする必要があるので、見直しについて聴取したいということでございます。

その中で特に強化すべき主な課題としては、4点を挙げました。

医師招聘への取り組みを強化する。これは常勤医24名ということですが、240床の安全で安定的な運営を保証し得る医師体制。中長期計画の最終年度では30名を目標にということで考えておりますが、少なくともやはり30名の確保を目指すつもりということで、この取り組みを強化しようということで、これも一番大きな課題に挙げて見直ししたい、ということで考えております。

2つ目としては、保健、医療、介護、福祉のネットワークの核となる病院です。これは超高齢化社会に向かう中で、地域の中核的な急性期病院として保健、医療、介護、福祉、このネットワークづくりの地域医療の発展に不可欠な課題でありますし、急性期病院としてはその中核となって新しい役割は国のほうでも強調されているところでございますので、引き続き中長期計画で励みたいと思っています。

3つ目では長期化をする放射線被害から地域住民の心と体の健康を守り、災害に強い国づくりを進める。施設整備はおかげさまで整うことができましたが、そういう面では医療環境はよくなりました。ただ、今後とも長期的に続く課題のため継続的に小口でも対応をしていく必要があると考えております。

4つ目としては、経営基盤を強化する。

地域医療に果たす当院の役割はますます高まっております。内外の医療環境の変化、これに耐え得る経営基盤をすぐに確立するという点では非常に重要であるということで、この4つの課題を中心に、それまでの課題であります。これからこの4つを中心に見直しを進めて、考えております。

それから新たな課題としましては、須賀川市と福島医大臨床研究イノベーションセンターとの連携事業、これは健康長寿推進事業として須賀川市とイノベーションセンターと、これらが取り組まれておりますが、医療の分野で急性期病院としても健康長寿推進の両方のところにも大きく私たちも考えていこうということで、これも新たな課題として掲げる必要があるというふうに考えております。

それから、産科、婦人科開設についてということでございます。

1)のイノベーションセンターについては2枚目の資料をごらんいただきたいと思います。

これは須賀川市が県立医科大、当院と連携し、健診の受診率の向上や医療用具を有効に活用して保険金の全体としては進める。中高年の早期死亡リスク評価、あるいは高齢者の健康長寿推進事業、これをサポートする事業として取り組まれております。この一環として、当院においても総合診療医としてイノベーションセンターの6人の先生方に診療支援、外来支援をいただいております。

月曜と金曜日がそれぞれ上の先生方1名ずつ、火曜と木曜については2名ずつの先生が総合診療科として対応をいただいております。

非常に、病棟、常勤の先生方も大変助かっておりますし、ところが外来診療を厚くすることで紹介の患者さん、新患の患者さんについても今までよりは近隣に対応することができております。当院の先生は専門外来に軸足を置いて対応できるということで、幅広い外来診療体制が構築できているということで、今後とも期待をしているところです。

次に、資料2、公立岩瀬病院における産科、婦人科開設について、でございますが、これについては経過を簡単に紹介しておりますが、大きくは7月2日、須賀川市岩瀬及び石川地方地域医療懇談会。これが開催されております。この中で公立岩瀬病院に産科、婦人科開設を目指すこと。こういうことがこの懇談会で地域合意がなされました。

それを受けて、当院でも7月15日に経営会議を開いて、この会議に対して院内でも具体的に進めるということで、プロジェクトチームを立ち上げて運営を進めております。

また25日には、県立医科大婦人科講座教授と、この内容に向けて協議を行いました。

また、合わせて県のほうにもご相談申し上げています。

8月20日、28日、3日と12日に橋本市長と、構成町村の首長さん方と、臨時理事者協議ということで、報告方々協議をしまいいりました。

その中で、9月29日に企業団の定例議会を開催いたしましたが、この中で、基本設計については早期に取り組む必要があるということで補正予算として提出をしてご承認いただいております。

それを受けて18、14日には医大の婦人科、小児科の藤森、細谷両教授のほうに訪問いたしまして、報告かたがた基本設計については着手するというところで報告を申し上げております。

現在、こういう中で、この課題には取り組んでいるところでございます。

以上で、中長期計画の見直しについての報告とさせていただきます。

会長（小林清三君）

ありがとうございました。

それでは、ただいま「公立岩瀬病院中長期計画見直しについて」ご説明がございましたが、皆さんの方からご質問等ございますか。

細井委員。

委員（細井正彦君）

産科、婦人科の開設について、ちょっとお伺いしたいんですけど、福島病院の産科の先生方がこちらへ異動するとかという話を聞いたので、その辺の確認と、NICUというのが、こちらに、もし来るとしたら一緒に来るのかどうか、その2点をお願いします。

事務長（菅野俊明君）

まだ、そこまでの話は、具体的にございません。医師についても。ただ、医大のほうでは、周産期医療については28年6月、この工事、始まっていますが新たに国際医療科学センターをつかって、そこに入りそう。集中して大きくしたい。そのタイミングで医師を派遣したいという話は頂戴していますが、具体的に福島医大であるかどうかという、そういうことは何も言われていないです。

委員（細井正彦君）

そのまま、例えばドクターがこちらに来るというわけではなくて、一旦は、もしも、もしもですけど、向こうがなくなるとしたら1回引き上げて、またもう1回こちらへという形であって、そのスタッフがこのままこちらに異動するという話ではないんですね。もし、そうだとしたとしても。

事務長（菅野俊明君）

そのことも含めて、まだ明確にお話、いただいておりますので。

会長（小林清三君）

ほかに、ございませんか

事務長（菅野俊明君）

中長期計画の見直しで、工程表価格のところ、報告しておりませんでした。中長期計画の見直しについて、病院の中では4月からプロジェクトチームの設置をいたしまして、中長期計画の具体的な見直しについて検討を始めておりまして、ここでは9月末で整理ということになっておりますが、今、大体、あと、上にかけておりまして、その内容を受けて、まず上の管理部のほうに報告をいただきながら、その案としてたたき台の最終調整に入っております。

2番目は、それを受けて中長期計画の見直しを、具体的に病院管理も含めて進めていきたいということで考えております。それで、次回、2月ごろを予定しておりますが、この評価委員会のほうに、この見直し内容についてご報告できるように準備を進めていきたいなというふうに考えております。

最終的には、評価委員会、次回の定例会に報告をして、見直しの案についてはご承認いただいて、4年目、5年目を迎えていきたいというふうに考えております。

以上です。

会長（小林清三君）

それでは、ただいま行程表につきまして、ご説明ありましたので、それについて何か、ご質問ございませんか。

ないようでございますので、次に移らせていただきます。

最後になりますけど、その他のことになりますけど、委員の皆様の方から何かございますか。

なければ、ご当局のほう、いかがですか。

事務長（菅野俊明君）

こちらの方、特にございません。

会長（小林清三君）

ございませんか。

わかりました。

ないようでございますので、それでは本日の議題は全て終了いたしました。

まさに、効率的に運営させていただきまして、ありがとうございました。

議長の席を解かせていただきます。

お疲れさまでございました。

総務課長（塩田 卓君）

ありがとうございました。

なお、次回、第6回の評価委員会の開催につきましては、年が明けまして来年の2月ごろを予定しておりますので、また、開催の通知を送付する形になりますが、ご予定をよろしくお願ひしたいと思ひます。

それでは、これをもちまして、第5回公立岩瀬病院中長期計画評価委員会を閉会いたします。

ありがとうございました。

午後2時55分 閉会